

LM・オーストラリア・インカム・アロケーション・ファンド (毎月分配型) <愛称: オージーインカム>

追加型投信/海外/資産複合

交付運用報告書

第1期(決算日2015年12月28日) 第2期(決算日2016年1月28日) 第3期(決算日2016年2月29日)
第4期(決算日2016年3月28日) 第5期(決算日2016年4月28日) 第6期(決算日2016年5月30日)

作成対象期間(2015年12月15日~2016年5月30日)

第6期末(2016年5月30日)	
基準価額	9,842円
純資産総額	195百万円
第1期 ~ 第6期	
騰落率	△0.8%
分配金(税込み)合計	80円

(注) 騰落率は分配金(税込み)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。

(注) 純資産総額の単位未満は切捨てて表示しております。

- 交付運用報告書は、運用報告書に記載すべき事項のうち重要なものを記載した書面です。その他の内容については、運用報告書(全体版)に記載しております。
- 当ファンドは、投資信託約款において運用報告書(全体版)に記載すべき事項を、電磁的方法によりご提供する旨を定めております。運用報告書(全体版)は、レグ・メイソン・アセット・マネジメント株式会社のホームページにて閲覧・ダウンロードいただけます。
- 運用報告書(全体版)は、受益者の方からのご請求により交付されます。交付をご請求される方は、販売会社までお問い合わせください。

<運用報告書(全体版)の閲覧・ダウンロード方法>
ホームページの「ファンド情報・基準価額一覧」等から当ファンドを選択することにより、運用報告書(全体版)を閲覧及びダウンロードすることができます。

受益者のみなさまへ

毎々、格別のご愛顧にあずかり厚くお礼申し上げます。

さて、「LM・オーストラリア・インカム・アロケーション・ファンド(毎月分配型)<愛称: オージーインカム>」は、2016年5月30日に第6期の決算を行いました。

当ファンドは、インカム収入の確保と信託財産の中長期的な成長を目指して運用を行いました。

ここに、当作成対象期間の運用経過等についてご報告申し上げます。

今後とも一層のお引立てを賜りますよう、お願い申し上げます。

レグ・メイソン・アセット・マネジメント株式会社

東京都千代田区丸の内一丁目5番1号

お問い合わせ先

TEL 03-5219-5947

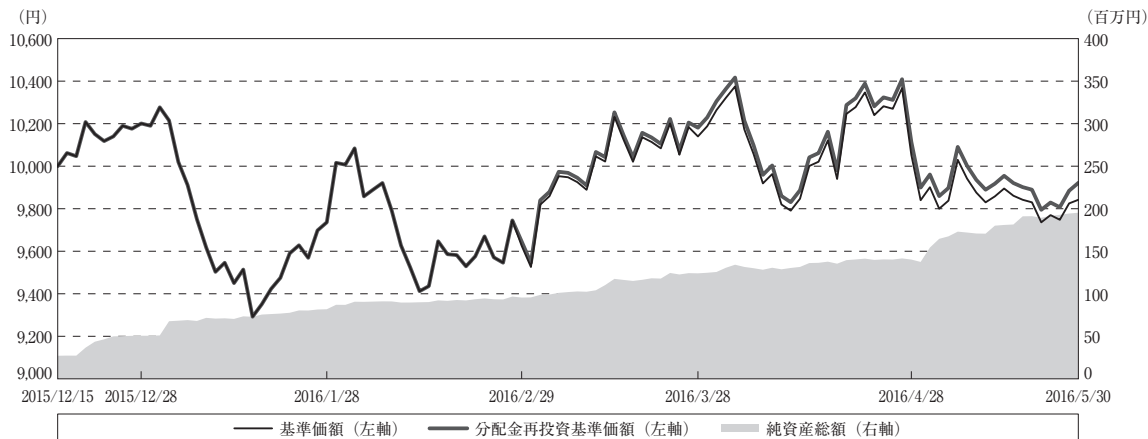
(営業日の9:00~17:00)

<http://www.leggmason.co.jp>

運用経過

作成期間中の基準価額等の推移

（2015年12月15日～2016年5月30日）



設定日：10,000円

第6期末：9,842円（既払分配金（税込み）：80円）

騰落率：△0.8%（分配金再投資ベース）

- (注) 分配金再投資基準価額は、分配金（税込み）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
- (注) 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なり、また、ファンドの購入価額により課税条件も異なりますので、お客様の損益の状況を示すものではありません。
- (注) 上記騰落率は、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。

○基準価額の主な変動要因

当作成期末（2016年5月30日）のLM・オーストラリア・インカム・アロケーション・ファンド（毎月分配型）（以下、当ファンド）の基準価額は9,842円（分配金控除後）となりました。当作成期の当ファンドのパフォーマンス（騰落率）はマイナス0.8%（分配金再投資ベース）、基準価額は78円（分配金込み）下落しました。

オーストラリアの株式市場が上昇する中、株式要因はプラスとなりました。公社債要因についても、オーストラリアの債券利回りが低下したことを受けてプラスとなりました。一方、豪ドル・円相場が豪ドル安・円高となったことから、為替要因はマイナスとなりました。

1万口当たりの費用明細

（2015年12月15日～2016年5月30日）

項 目	第1期～第6期		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
(a) 信託報酬	円 77	% 0.766	(a) 信託報酬 = 作成期間の平均基準価額 × 信託報酬率
(投信会社)	(37)	(0.372)	委託した資金の運用の対価
(販売会社)	(37)	(0.372)	交付運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理、購入後の情報提供等の対価
(受託会社)	(2)	(0.022)	運用財産の管理、投信会社からの指図の実行の対価
(b) 売買委託手数料	1	0.013	(b) 売買委託手数料 = 作成期間の売買委託手数料 ÷ 作成期間の平均受益権口数
(株式)	(1)	(0.007)	売買委託手数料は、有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料
(投資証券)	(0)	(0.006)	
(先物・オプション)	(0)	(0.000)	
(c) その他費用	7	0.066	(c) その他費用 = 作成期間のその他費用 ÷ 作成期間の平均受益権口数
(保管費用)	(1)	(0.012)	保管費用は、海外における保管銀行等に支払う有価証券等の保管及び資金の送金・資産の移転等に要する費用
(監査費用)	(2)	(0.018)	監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用
(印刷等費用)	(1)	(0.005)	印刷等費用は、印刷業者等に支払う法定書類の作成、印刷、交付および届出に係る費用
(業務委託等費用)	(0)	(0.000)	計理及びこれに付随する業務の委託等の費用
(その他)	(3)	(0.031)	権利処理に伴う費用（外国税額分も含む）
合 計	85	0.845	
作成期間の平均基準価額は、10,058円です。			

(注) 作成期間の費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む）は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

(注) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

(注) 売買委託手数料およびその他費用は、このファンドが組み入れている親投資信託が支払った金額のうち、当ファンドに対応するものを含みます。

(注) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額（円未満の端数を含む）を作成期間の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

最近5年間の基準価額等の推移

（2011年5月30日～2016年5月30日）



- (注) 分配金再投資基準価額は、分配金（税込み）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
- (注) 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なり、また、ファンドの購入価額により課税条件も異なりますので、お客様の損益の状況を示すものではありません。
- (注) 当ファンドの設定日は2015年12月15日です。

	2015年12月15日 設定日	2016年5月30日 決算日
基準価額 (円)	10,000	9,842
期間分配金合計 (税込み) (円)	—	80
分配金再投資基準価額騰落率 (%)	—	△ 0.8
純資産総額 (百万円)	27	195

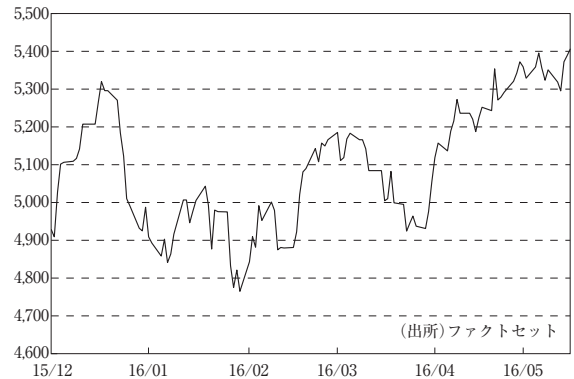
- (注) 上記騰落率は、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。
- (注) 純資産総額の単位未満は切捨てて表示しております。
- (注) 設定日の基準価額は設定当初の金額、純資産総額は設定当初の元本額を表示しており、騰落率は設定当初との比較です。
- (注) 市場に広く認知されているベンチマーク等で、当ファンドのリスク特性を正確に反映する指標が見当たらないため、現状では、当ファンドの収益率及びリスク特性を特定のベンチマーク等と比較していません。

投資環境

（2015年12月15日～2016年5月30日）

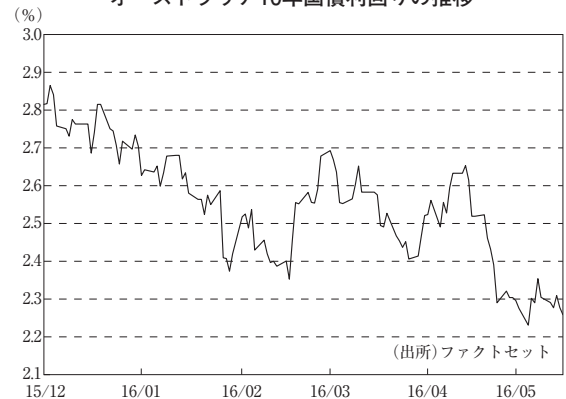
当作成期のオーストラリア株式市場は上昇しました。当ファンドが主要投資対象としているREIT（リート）及び公益事業セクターも上昇しました。期の前半は、米国の利上げペースが緩やかなものとなるとの見通しなどを背景に、株価は上昇して始まりました。しかし、2016年に入り原油安や世界的な株安が進行したことなどから、投資家のリスク回避姿勢が強まり、株価は下落に転じました。期の半ばは、原油価格に持ち直しの動きが見られたことや鉄鉱石価格が上昇したことなどから、株式市場も下値を固める展開となりました。その後、主要貿易相手国である中国が追加緩和を決定したことや、2015年10-12月期の豪GDP成長率が市場予想を上回り、国内景気の底堅さが意識されたことなどから、株式市場は上昇しました。期の後半は、豪雇用統計が市場予想を上回る内容となったことや、鉄鉱石価格が上昇したことなどから株式市場は上昇基調となりました。さらに、オーストラリア準備銀行（RBA）が2016年5月の理事会で利下げを決定し、その後も市場の追加利下げ観測が根強いことなどから、株式市場は上値を伸ばす展開となりました。

オーストラリア株式指数（ASX200）の推移

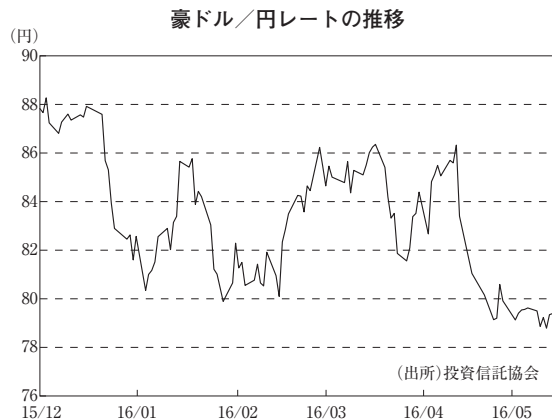


当作成期のオーストラリア債券市場は、利回りが低下（価格は上昇）しました。期の前半は、原油価格の下落が続いたことや、中国に端を発した世界的な株安が進行したことなどから、投資家のリスク回避姿勢が強まる中、安全資産としての債券が買われ、利回りは低下しました。日銀がマイナス金利政策の導入を決定したことも、利回りの低下要因となりました。期の半ばは、原油価格や株式相場が反発し、リスク回避姿勢が和らいだことから、利回りは上昇（価格は下落）しました。2015年10-12月期の豪GDP成長率が予想を上回ったことも、利回りの上昇要因となりました。その後は、米国の利上げが緩やかなペースにとどまるとの見方を背景に、米国国債利回りが低下した影響で、オーストラリアの債券利回りも低下しました。期の後半は、原油価格が上昇するとともに、株式相場も堅調となったことから、利回りは上昇しました。しかしその後は、豪消費者物価指数が予想を下回ったことや、RBAがインフレ圧力の低下を背景に利下げを決定したことなどから、利回りは低下しました。

オーストラリア10年国債利回りの推移



当作成期の豪ドル・円相場は、豪ドル安・円高となりました。期の前半は、中国景気の先行き不透明感や世界的な株安などによって投資家のリスク回避姿勢が強まったことから、豪ドル売り・円買いが強まりました。その後、日銀が予想外の追加緩和を決定したことを受け、豪ドルは対円で上昇しましたが、世界的な株安や原油安を受けて、再び豪ドル売り・円買いが優勢となりました。期の半ばは、オーストラリア国内経済の底堅さや資源価格の上昇を背景に、豪ドルは対円で反発しました。その後も商品相場の上昇を好感して、豪ドルは底堅く推移しました。期の後半は、日銀が市場の期待に反して追加緩和の見送りを決定した一方、RBAが利下げを決定し、その後も追加利下げ観測が残ったことなどから、豪ドルは対円で下落しました。



当ファンドのポートフォリオ

(2015年12月15日～2016年5月30日)

当ファンドは、主に「LM・豪ドル債券マザーファンド」受益証券および「LM・豪州インカム資産マザーファンド」受益証券への投資を通じて、豪ドル建の公社債およびオーストラリアの証券取引所に上場している株式及び不動産投資信託を含む投資信託証券に投資を行い、インカム収入の確保と信託財産の中長期的な成長を目指して運用に努めてまいりました。原則として、マザーファンド受益証券の基本投資割合は50対50とします。また、外貨建資産については、原則として為替ヘッジを行いません。

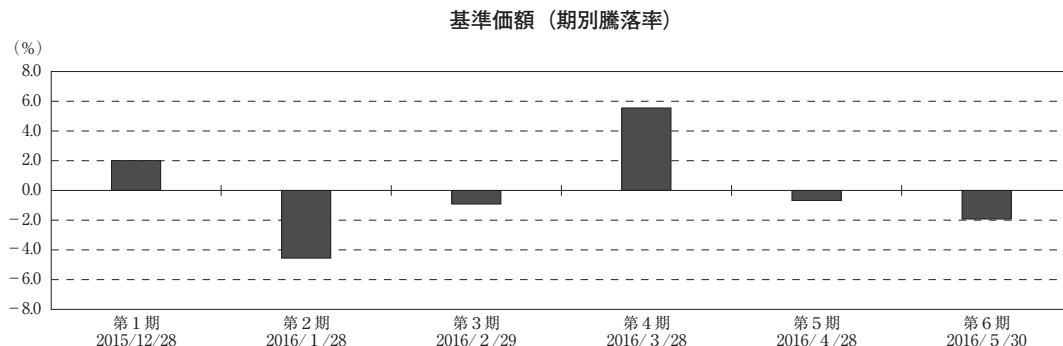
当作成期においては、株式・不動産投資信託等では配当利回りに着目し、相対的に配当利回りの高い銘柄を中心に投資を行いました。また、オーストラリア株式市場全体に比べてLM・豪州インカム資産マザーファンドの中長期的な値動きを小さく抑えることを目指してポートフォリオを構築しました。公社債では、金融債、リート・セクター、公共事業セクター等を中心とした社債を引き続き厚めとしました。金融債の組み入れにおいては、カバードボンド（債権担保付社債の一種）、大手金融機関が発行する流動性・信用力が相対的に高い債券等が組み入れの中心となっています。また、LM・豪ドル債券マザーファンドのポートフォリオ全体の平均格付けは引き続き高位に保ちました。なお、インカム資産および債券への投資比率は、基本投資割合である50対50程度となっています。

当ファンドのベンチマークとの差異

（2015年12月15日～2016年5月30日）

市場に広く認知されているベンチマーク等で、当ファンドのリスク特性を正確に反映する指標が見当たらないため、現状では、当ファンドの収益率及びリスク特性を特定のベンチマーク等と比較しておりません。

以下のグラフは、作成期間の当ファンドの期別基準価額騰落率です。



（注）基準価額の騰落率は分配金（税込み）込みです。

分配金

（2015年12月15日～2016年5月30日）

分配金につきましては、基準価額動向や保有債券の利子収入および保有株式等の配当収入等を勘案し、以下の通りとさせていただきます。なお、収益分配に充当しなかった利益につきましては信託財産中に留保し、運用の基本方針に基づき運用を行います。

○分配原資の内訳

（単位：円、1万口当たり・税込み）

項 目	第1期	第2期	第3期	第4期	第5期	第6期
	2015年12月15日 ～2015年12月28日	2015年12月29日 ～2016年1月28日	2016年1月29日 ～2016年2月29日	2016年3月1日 ～2016年3月28日	2016年3月29日 ～2016年4月28日	2016年4月29日 ～2016年5月30日
当期分配金	—	—	20	20	20	20
（対基準価額比率）	—%	—%	0.207%	0.197%	0.199%	0.203%
当期の収益	—	—	20	20	15	10
当期の収益以外	—	—	—	—	4	9
翌期繰越分配対象額	200	186	194	266	263	256

（注）対基準価額比率は当期分配金（税込み）の期末基準価額（分配金込み）に対する比率であり、ファンドの収益率とは異なります。

（注）当期の収益、当期の収益以外は小数点以下切捨てで算出しているため合計が当期分配金と一致しない場合があります。

今後の運用方針

当ファンドの運用におきましては、株式・不動産投資信託等についてはこれまで同様に、市場環境を注視しながら、配当利回りに着目し、相対的に配当利回りの高い銘柄を選別し、ポートフォリオの構築を行う方針です。また、個別銘柄や業種の選定を通じて、LM・豪州インカム資産マザーファンドの中長期的な値動きをオーストラリア株式市場全体に比べて小さく押さえることを目指します。公社債については、市場動向を睨みながらデュレーション（利回りが変動した場合の債券価格変動性）を調整する方針です。資産配分については、金融債、リート・セクター、公共事業セクター等を中心とした社債を引き続き厚めとする方針です。金融債については、カバードボンド、大手金融機関が発行する流動性・信用力が相対的に高い債券等を組み入れの中心とします。

オーストラリア経済は、2015年10-12月期の豪GDP成長率がプラス成長を維持するなど、緩やかな回復基調を維持しています。鉱業セクターから非鉱業セクターを牽引役とする景気サイクルへの移行が進む中、雇用環境が改善傾向にあることなどが景気の下支えとなっています。また、RBAによる利下げ効果も見込まれ、オーストラリア経済は今後も緩やかな景気回復を維持するものと予想されます。

金融政策については、RBAは2016年5月3日の理事会で1年ぶりの利下げを決定し、政策金利は0.25%引き下げられ過去最低の1.75%となりました。RBAは当面、利下げ効果やインフレを注視しながら様子見姿勢を維持すると予想されますが、今後の物価の動向次第では追加利下げの可能性もあるとみています。

お知らせ

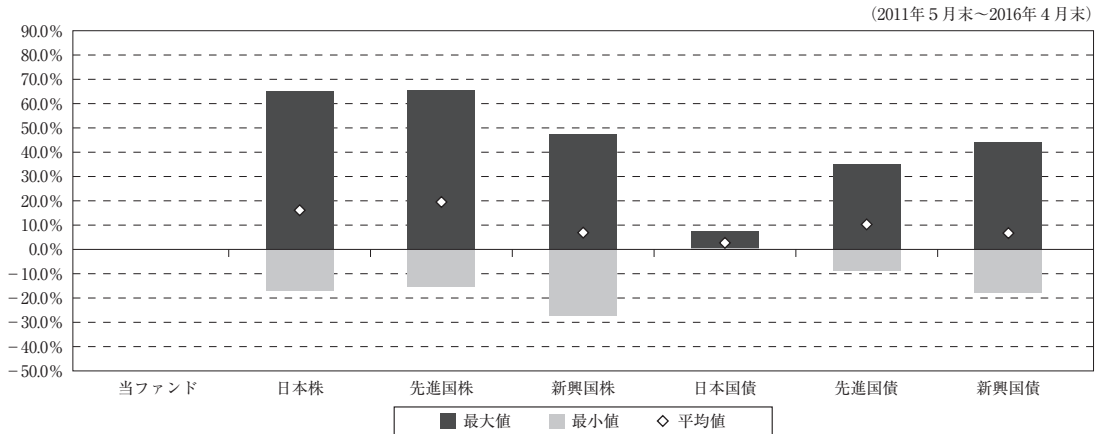
該当事項はございません。

当ファンドの概要

商品分類	追加型投信／海外／資産複合	
信託期間	2015年12月15日から2025年11月28日まで	
運用方針	主に豪ドル建の公社債およびオーストラリアの証券取引所に上場している株式及び不動産投資信託を含む投資信託証券に投資を行い、インカム収入の確保と信託財産の中長期的な成長を目指します。	
主要投資対象	当ファンド	LM・豪ドル債券マザーファンドおよびLM・豪州インカム資産マザーファンドの各受益証券を主要投資対象とします。
	LM・豪ドル債券マザーファンド	豪ドル建の公社債を主要投資対象とします。
	LM・豪州インカム資産マザーファンド	オーストラリアの証券取引所に上場している株式及び不動産投資信託を含む投資信託証券を主要投資対象とします。
運用方法	当ファンド	株式への実質投資割合は、信託財産の純資産総額の70%以内とします。 外貨建資産への実質投資割合には、制限を設けません。
	LM・豪ドル債券マザーファンド	株式（新株引受権証券等を含みます。）及び転換社債等への投資は行いません。 外貨建資産への投資割合には、制限を設けません。
	LM・豪州インカム資産マザーファンド	株式への投資割合には、制限を設けません。 外貨建資産への投資割合には、制限を設けません。
分配方針	決算日（原則として毎月28日。休業日の場合は翌営業日）に、基準価額水準等を勘案して収益の分配を行います。	

（参考情報）

○当ファンドと代表的な資産クラスとの騰落率の比較



（単位：%）

	当ファンド	日本株	先進国株	新興国株	日本国債	先進国債	新興国債
最大値	—	65.0	65.7	47.4	7.4	34.9	44.1
最小値	—	△17.0	△15.6	△27.4	0.4	△8.6	△18.1
平均値	—	16.1	19.5	6.8	2.6	10.3	6.6

（注）全ての資産クラスが当ファンドの投資対象とは限りません。

（注）2011年5月から2016年4月の5年間の各月末における直近1年間の騰落率の最大値・最小値・平均値を表示したものです。なお、当ファンドにつきましては、運用期間が1年未満であるため掲載しておりません。

（注）上記の騰落率は決算日に対応した数値とは異なります。

*各資産クラスの騰落率を計算するために使用した指数

日本株：東証株価指数（TOPIX）（配当込み）

先進国株：MSCIコクサイ・インデックス（配当込み、ヘッジなし・円ベース）

新興国株：MSCIエマージング・マーケット・インデックス（配当込み、ヘッジなし・円ベース）

日本国債：シティ日本国債インデックス（円ベース）

先進国債：シティ世界国債インデックス（除く日本、ヘッジなし・円ベース）

新興国債：シティ新興国市場国債インデックス（ヘッジなし・円ベース）

（注）海外の指数は、各資産クラスに為替ヘッジなしによる投資を行うことを想定して、円ベースの指数を採用しております。

（注）上記各指数に関する著作権、知的財産権その他の一切の権利はその指数を算出、公表しているそれぞれの主体に帰属します（TOPIX：株式会社東京証券取引所、MSCIコクサイ・インデックスおよびMSCIエマージング・マーケット・インデックス：MSCI Inc.、シティ日本国債インデックス、シティ世界国債インデックス、シティ新興国市場国債インデックス：Citigroup Index LLC）。また、それぞれの主体は当ファンドの運用に関して一切の責任を負うものではありません。

当ファンドのデータ

組入資産の内容

(2016年5月30日現在)

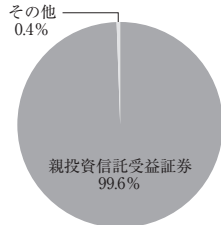
○組入上位ファンド

銘柄名	第6期末
	%
L M・豪ドル債券マザーファンド	50.2
L M・豪州インカム資産マザーファンド	49.4
組入銘柄数	2銘柄

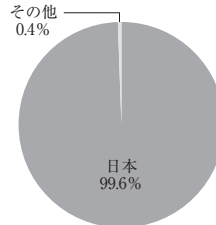
(注) 組入比率は純資産総額に対する評価額の割合です。

(注) 組入銘柄に関する詳細な情報等につきましては、運用報告書（全体版）に記載しております。

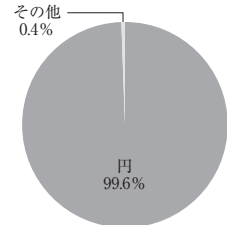
○資産別配分



○国別配分



○通貨別配分



(注) 比率は組入資産（現金等を除く）の当ファンドの純資産総額に対する割合です。

(注) 国別配分につきましては発行国もしくは投資国を表示しております。

(注) 通貨別配分は組入資産（現金等を除く）を通貨で区分したものであり、通貨変動に伴うファンドの価格変動リスクと異なることがあります。

純資産等

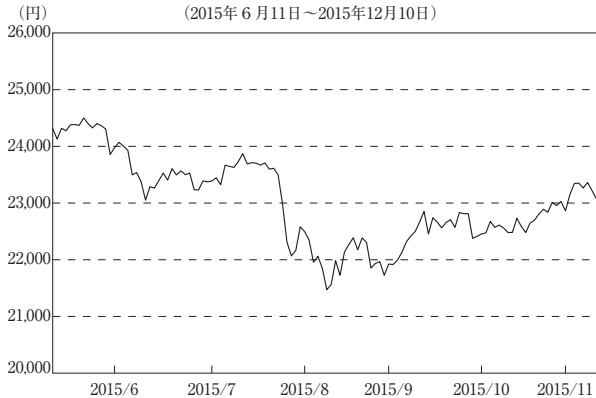
項目	第1期末	第2期末	第3期末	第4期末	第5期末	第6期末
	2015年12月28日	2016年1月28日	2016年2月29日	2016年3月28日	2016年4月28日	2016年5月30日
純資産総額	50,662,621円	81,813,477円	95,543,752円	124,024,472円	140,214,628円	195,282,905円
受益権総口数	49,666,016口	84,030,878口	99,259,126口	122,308,207口	139,468,807口	198,423,179口
1万円当たり基準価額	10,201円	9,736円	9,626円	10,140円	10,053円	9,842円

* 当作成期間（第1期～第6期）中における追加設定元本額は173,674,526円、同解約元本額は2,370,497円です。

組入上位ファンドの概要

L M・豪ドル債券マザーファンド

【基準価額の推移】



【1万口当たりの費用明細】

(2015年6月11日～2015年12月10日)

項目	当期	
	金額	比率
(a) 売買委託手数料 (先物・オプション)	0円 (0)	0.001% (0.001)
(b) その他費用 (保管費用)	1 (1)	0.004 (0.004)
合計	1	0.005

期中の平均基準価額は、22,850円です。

(注) 上記項目の概要につきましては運用報告書（全体版）をご参照ください。

(注) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

(注) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額（円未満の端数を含む）を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

【組入上位10銘柄】

(2015年12月10日現在)

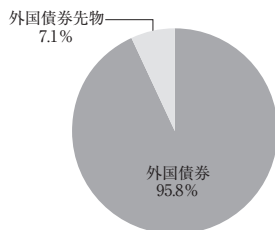
	銘柄名	業種／種別等	通貨	国（地域）	比率 %
1	オーストラリア国債（10年）2015.12限月	債券先物（買建）	オーストラリアドル	オーストラリア	4.1
2	オーストラリア国債（3年）2015.12限月	債券先物（売建）	オーストラリアドル	オーストラリア	2.9
3	AUSTRALIA GOVT 4.5% 2033/4/21	国債証券	オーストラリアドル	オーストラリア	1.6
4	AUSTRALIA GOVT 4.75% 2027/4/21	国債証券	オーストラリアドル	オーストラリア	1.5
5	QUEENSLAND TREASURY 6% 2018/2/21	地方債証券	オーストラリアドル	オーストラリア	1.5
6	AUSTRALIA GOVT 3.25% 2029/4/21	国債証券	オーストラリアドル	オーストラリア	1.4
7	QUEENSLAND TREASURY 6% 2022/7/21	地方債証券	オーストラリアドル	オーストラリア	1.4
8	VICTORIA TREASURY 6% 2022/10/17	地方債証券	オーストラリアドル	オーストラリア	1.4
9	NEW S WALES TREAS CORP 5% 2024/8/20	地方債証券	オーストラリアドル	オーストラリア	1.3
10	AUSTRALIAN GOVT 3.75% 2037/4/21	国債証券	オーストラリアドル	オーストラリア	1.3
	組入銘柄数		297銘柄		

(注) 比率は、純資産総額に対する割合です。

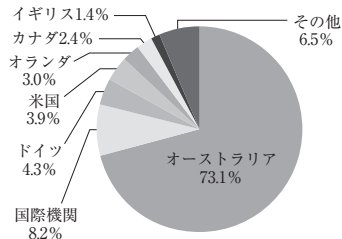
(注) 組入銘柄に関する詳細な情報等につきましては、運用報告書（全体版）に記載しております。

(注) 国（地域）につきましては発行国もしくは投資国を表示しております。

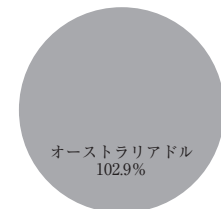
【資産別配分】



【国別配分】



【通貨別配分】



(注) 比率は組入資産（現金等を除く）の当ファンドの純資産総額に対する割合です。

(注) 国別配分につきましては発行国もしくは投資国を表示しております。

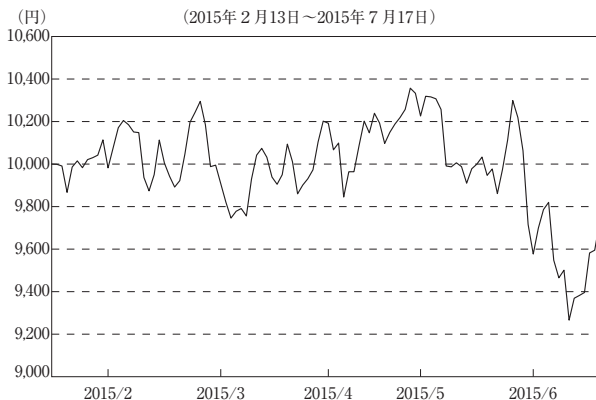
(注) 先物の比率は絶対値ベースで記載しております。

(注) 通貨別配分は組入資産（現金等を除く）を通貨で区分したものであり、通貨変動に伴うファンドの価格変動リスクと異なることがあります。

※当マザーファンドの計算期間における運用経過の説明は運用報告書（全体版）をご参照ください。

L M・豪州インカム資産マザーファンド

【基準価額の推移】



【1万口当たりの費用明細】

(2015年2月13日～2015年7月17日)

項目	当期	
	金額	比率
(a) 売買委託手数料 (株投) (資証)	21 (10) (11)	0.208 (0.097) (0.112)
(b) その他費用 (保の) (管の) (費の) (用の) (他)	3 (3) (1)	0.034 (0.027) (0.007)
合計	24	0.242

期中の平均基準価額は、9,977円です。

(注) 上記項目の概要につきましては、2ページをご参照ください。
 (注) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。
 (注) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額（円未満の端数を含む）を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

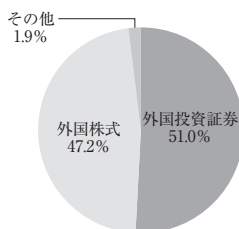
【組入上位10銘柄】

(2015年7月17日現在)

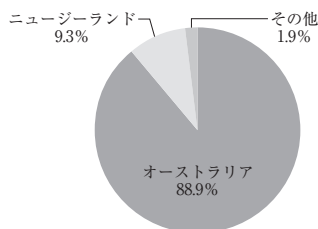
銘柄名	業種／種別等	通貨	国（地域）	比率
1 FEDERATION CENTRES	投資証券	オーストラリアドル	オーストラリア	9.0
2 STOCKLAND	投資証券	オーストラリアドル	オーストラリア	7.4
3 TRANSURBAN GROUP	高速道路・鉄道路線	オーストラリアドル	オーストラリア	7.3
4 DUET GROUP	総合公益事業	オーストラリアドル	オーストラリア	6.5
5 SCENTRE GROUP	投資証券	オーストラリアドル	オーストラリア	6.4
6 AUSNET SERVICES	電力	オーストラリアドル	オーストラリア	5.7
7 GPT GROUP	投資証券	オーストラリアドル	オーストラリア	4.5
8 WESTFIELD CORP	投資証券	オーストラリアドル	オーストラリア	4.5
9 MIRVAC GROUP	投資証券	オーストラリアドル	オーストラリア	4.4
10 SYDNEY AIRPORT	空港サービス	オーストラリアドル	オーストラリア	4.4
組入銘柄数			24銘柄	

(注) 比率は、純資産総額に対する割合です。
 (注) 組入銘柄に関する詳細な情報等につきましては、運用報告書（全体版）に記載しております。
 (注) 国（地域）につきましては発行国もしくは投資国を表示しております。

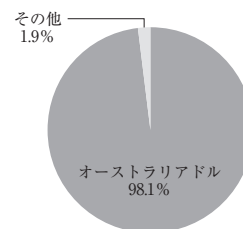
【資産別配分】



【国別配分】



【通貨別配分】



(注) 比率は組入資産（現金等を除く）の当ファンドの純資産総額に対する割合です。
 (注) 国別配分につきましては発行国もしくは投資国を表示しております。
 (注) 通貨別配分は組入資産（現金等を除く）を通貨で区分したものであり、通貨変動に伴うファンドの価格変動リスクと異なることがあります。

※当マザーファンドの計算期間における運用経過の説明は運用報告書（全体版）をご参照ください。